

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	平成 27年 1月 26日	評価結果市町村受理日	平成27年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovsoCd=0390200160-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年 2月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、「ひとりの心を見つめるケア」を方針として、入居者様ひとりひとりの個性や生活を尊重する支援を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を団地、住宅に囲まれており地域とのつながりが事業所の運営に広がりを持たせている。昨年度から介護職員2人でチームを組み、1チーム3人を担当するシステムを導入しており、利用者個々に合わせたきめ細かいケアサービスを実施している。生活の様子や家族への報告、介護計画の1ヶ月毎のモニタリング、居室での生活の見守りや支援などを通じて担当者や利用者との間により緊密な関係が生まれ、担当制の効果が出てきている。現在、ターミナルケアの指針と訪問看護の契約を検討中で、サービスの向上を模索しながらケアに取り組んでいるほか、最近開設した認知症患者医療センターとの関係づくりにも意欲を見せている。また、事業所主催の「地域交流会」への子供会の招待、団地内の子ども達への事業所の開放など子ども達を中心とした地域との交流にも力を入れている。今後は、「地域交流会」への地域参加を拡大するなど地域との関係を充実させ、団地等の高齢者支援の核としての活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりの心を見つめるケア」を理念に9人の入居者様個々に合わせ対応している。	運営法人として定めた理念「一人ひとりの心を見つめるケア」の実践は、一人ひとりに合った介護計画の作成と個別援助に現れている。職員が名前を伏せて計画を見ても、利用者の誰のものであるか分かるほど個別的できめの細かい計画の作成を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域交流会等のグループコミュニケーションから、地域の花壇の花植え・清掃作業等の参加まで多種に行っている。	夏祭り等の事業所行事を「地域交流会」に位置付け、子供会や老人クラブに声を掛けて20人程の参加を得ている。新年の餅つき大会にも子供会を招待している。また保育園の行事に招待されたり、年中・年長組の園児が遊びに来る。子ども達が自由に出入りできるように事業所を開放しており、学校帰りに顔を出し宿題をやっていく児童もいる。団地の清掃や花壇づくりに職員が参加しており、子ども達を中心に地域との繋がりが深まってきている。	子ども達との交流を基点に地域との繋がりを進め、地域密着型事業所として認知症啓発からの視点も加え、高齢者世帯が増加しつつある団地住民との交流に一層力を入れることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会等のイベントや日々の散歩におけるご挨拶等、生活に密着したコミュニケーションを心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の方々、入居者様のご家族、行政の担当者、地域担当の警察を交えて、日頃の外部からの視点や意見を伺い、また、事業所からの要望も細かく出し合っている。	町内会、老人クラブ、民生委員、保育所、警察、家族等多様なメンバーで構成され、運営状況や行事の報告を基に意見や提言をいただいている。事業所は住宅街の中にあるが、地域交流がまだまだと感じており、認知症の啓発や地域防災の面から、推進協議会の協力を得ながら地域との繋がりを一層強めたいとしている。	議題は、事業所の運営にとどまらず、様々なテーマ(地域課題、防災、認知症への理解など)を取り上げるなど、運営推進会議を通じた地域密着の可能性を広げることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議を中心に、現在は介護人材育成プログラム推進事業等のやりとりも行っている。	「介護人材育成プログラム事業」により本年度も含めこれまで3人を採用したが、この制度の利用にあたり、市と緊密な協議を行った。また訪問看護師との契約に向け相談に乗ってもらうなど、担当課との連携は円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束において、職員の認識とスキルアップを外部研修と報告、事例研究をふまえて月に1回情報を共有している。	外部研修に職員を派遣し、報告で共有する他、職員が介護を受ける立場になって利用者の視点から体験する事例研究を内部研修として実施した。帰宅願望等で外に出ようとする利用者には、落ち着いたまで会話しながら散歩するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本となる虐待の認識は当然ながら、入居者様の個々の不快に対して対応できるよう、申し送り等で常に職員間の意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修により、認知症の方の権利を擁護する方法の種類と理解を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前に何度か面談や相談をし、本人に関わる方にできるだけ安心感を持ってもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様の趣味や好きな食事を教えていただきながら、日常生活をより楽しく過ごして頂けるよう努力している。	年一回は家族会を開くようにしており、利用者、家族、職員で話し合う機会を持っており、その際に希望や要望を聴取している。担当者は自分の担当する利用者の家族と電話やメール、手紙等で親しく交流するよう努めている。職員の言動に注文が出ることもあり、職員皆で話し合い、必要な対応や改善を図るようにしている。	家族からの意見を取り入れるために、アンケートや家族と接する機会を増やすなど、より多くの家族の率直な意見を取り入れて、運営に生かせるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は、細かく聞き取る様にしており、常に代表者は話しやすいよう心がけている。	法人の代表(所長)は職員会議に出席し事業所の話し合いに参加している。また個別面談も年一度は実施している。朝夕のミーティングやチームケア会議(チームリーダー3人と管理者、計画作成担当者)で話題になった事案で全体の運営に関わるものは、職員会議で改善方策等を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査は、代表者の視点のみならず、日頃の職員とのコミュニケーションからも職場の様子を把握するよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常にスーパーバイザーとしての姿勢を心がけてOJTを行っている。内外研修にも取り組み職員が自己研鑽の意識を持つよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交換研修、認知症カフェの参加、地域グループホーム合同運動会への参加等、情報交換・交流をするよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、環境に慣れて安心できるまで各職員が関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には耳を傾け、職員の課題とし、お互いが納得できるまで話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは入居者様の身体状況等を把握し、それに伴ったプランを立てて実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日課として朝食後は、職員と一緒にホールの掃除を行っている。又、食後の後片付けや盛り付けなども一緒に行っている。ホームに来られたお客様にもお茶出しも行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にいらっしゃったときには、ホームでの様子を報告したり、必要なものなどを用意してもらっている。面会等で入居者様も安心し、喜んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の写真をお部屋に飾ったり、戴いた物も入居者様の見やすい所に置くようにしている。	担当者が利用者と話し合いながら、お墓参りに帰宅したり、実家の周辺をドライブしたりしている。また家族との繋がりが切れることのないよう、毎月の手紙等で連絡を密にし、知人、友人の来訪もお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が独りにならないよう配慮し、職員が話しかけ話題を提供している。又、入居者様同士トラブルの予兆が見えた際には、お互いの話を聞いて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を介して、社会やご家族との交流を図り、相談があったときには快く対応するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の言葉の意味を考え、行動の意味を多方面に考慮するように心がけている。	利用者の表情やちょっとした行動で思いや意向を理解するよう努めている。利用者の話はそのとおり受け止め、希望に沿うように対応することを基本にしている。実家や家族のことを気にかけている人が多く、家族と協力しながら、来所や電話で本人に安心してもらえるように対応している。中には携帯電話を持ち家族との連絡に使っている人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様個々の特徴に合わせ、一人ひとりにあつたケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活リズム・習慣を把握し、ニーズに対応できるよう予見を行うように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画と共に日々変化する入居者様の状態を全員が把握できるよう日誌やコミュニケーションにより対応している。	介護計画は、本人および家族の意向を踏まえて作成し、本人のサインをもらい、家族にも了解を得ている。作成の際は、個別性のあるプランを意識している。月1回のモニタリングを経て、3か月後に担当者会議で見直しを含め検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者による日々の記録のほか、日誌による微細な情報の記録・伝達に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者様の習慣・体調等9名それぞれに合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を確保しながら社用車を使用することで、近隣の商店への買い物、通院等に汎用的に動くことができる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が必要な場合には、ご家族と連絡を取り合い対応してもらう。その場合も通院結果の報告もお願いしている。職員が付き添いの場合は、結果をこちらから報告する。	利用前からのかかりつけ医が多く、家族の同伴をお願いしているが、最近では職員の同行が増えている。生活の様子やバイタルチェックデータを説明するようにしている。長年勤務した看護師が退職したため、4月から訪問看護師との契約に向け準備を進めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院になった場合には、ご家族・医師を交え話し合い、退院後も安心して過ごせるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況が悪化した場合、かかりつけ医と連携し、ご家族と話し合った上で、できるだけご本人とご家族の要望に答えられるよう努力している。	医療も必要とする重度化については、その段階で次の対応を家族と話し合うこととしている。看取り対象となる可能性のある利用者が入居しており、看取り指針を定め看取りに向けた準備を進めているが、看護師が不在、訪問診療の協力を得られない医師がいないなど看取り体制が不十分な状態にあり、整備に向けて努力中である。同一法人のグループホームと「ターミナルケア委員会」を設け、法人全体で対応を進め、職員はターミナルケア研修の受講など看取りスキルの修得に取り組む予定としている。	ターミナルケアの体制構築に対する積極的な姿勢は大いに評価される。4月からは訪問看護師による看護を受けられる見込みになっているが、訪問診療を行ってくれる医師の確保が急務であり、行政の協力も得ながら、在宅医療に理解のある医師との契約を急ぐなど、ターミナルケア体制の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故マニュアルを作成し、職員が対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を行い、緊急時に対応できるよう努力している。 近隣住民の支援もお願いし、体制作りに努めている。	春の火災避難訓練は消防署の指導を受けながら実施している。秋は事業所独自で夜間の火災発生を想定した訓練を行っており、比較的近くに住んでいる職員が多いことから緊急連絡網での召集訓練も行っている。近隣に協力の呼びかけを行っているが、参加いただくまでには至っていない。	事業所が住宅街の中にあり、両隣とも軒を接していることから、有事の際は近隣との連携は欠かせない。事業所を理解してもらうため、災害訓練時に限らず日常的なお付き合いを深める努力を重ねることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で、言葉遣いに注意し合いながら、適切な言葉を選ぶよう心がけている。	利用者に対し否定的な言動を取らないよう、職員間で徹底している。また、利用者同士の相性にも気を配り、お互いが尊重し合えるよう支援している。一人ひとりが誇りを持って毎日を送れるよう全員に役割を持ってもらうようにしており、毎朝「本日の当番」を発表し、食事(昼食、おやつ)づくり、配膳、後片付け、掃除、洗濯物たたみ、カーテン開閉などの家事を分担してもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に耳を傾け、職員と共に考え、自分のしたいことを表現してもらえるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合わせ、ご本人ができるところまで見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服もご本人に選んでもらったり、汚れたときには、着替えるなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の体重管理を行い、バランスよい食事を心がけている。材料の皮むきや切る作業、盛り付け、配膳を手伝って頂き、自分で作る喜びを感じてもらえるよう協力している。	食材は一週間分をストックしており、これを基に利用者の希望を入れながらその日のメニューを決めている。不足なものは買い出しで補充するが、同行した利用者が店頭で希望した食材を加えることもある。当番を決めて全員が積極的に協力し、準備から後始末まで手伝っており、皆でつくり、皆で楽しむ和気あいあいの食事となっている。	利用者の好みに配慮しており、また、準備や買い物も協働的で、食生活は利用者の楽しみにつながっている。今後は、栄養士などからの客観的な意見を得るなど、栄養バランスに更なる工夫が加わることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様が自由にいつでもお茶が飲めるように、ポットに麦茶を作り置いている。食事は、毎日摂取量を記録している。持病の体調不良に際しては、医師の指導に基づき補助食品にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしている。一人で充分にできないときは、職員が仕上げを行う。週に1回は口腔チェックを行い、磨き残しを確認し、義歯洗浄も行い衛生に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在は、リハビリパンツ使用者が数名であり、排泄の際は、羞恥心を考慮しながら介助を行っている。又、時間でのトイレ誘導も必要な入居者様には行っている。	全員がトイレで用を足している。夜も誘導により自分で起きてトイレに行く人が多い。リハビリパンツと布パンツの使用が半々であるが、布パンツに改善出来るよう見守りと、必要に応じて細やかな介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況をチェックし、食事等を工夫しながら対応している。改善が見られない場合は、かかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ個々の要望に合わせて対応している。(例:個々の入浴剤を使う)必要に応じて福祉用具も取り入れながら快適に入浴して頂けるよう努力している。	週2日から3日、午前入浴を基本としている。跨いで入る浴槽で、必要な人には福祉補助用具を使い、安全に入ってもらおうようにしている。峪荘は一人一人湯を入れ替え、好みの入浴剤を入れてゆっくりと楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にベッドを設置し、好きな時に休んで頂いている。自分の愛用の布団にて、安心してもらえるよう配慮している。定期的リネン交換を行い、清潔保持にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員で管理し、服用時にはご本人が飲み終えるまで見守っている。個別対応として、食後の服薬を意識してもらうために、食後は服薬の要求を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝食後、定期的に体操を行い、その後、本日の仕事担当を入居者の持ち回りで発表する。発表内容に準じて、家事の分担を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	10月より福祉車両が配置され、外出時にタクシーを使用せずドライブ等が多くできるようになった。車椅子の方の外出も回数が増え、気分転換が行いやすくなった。	散歩は、団地内の公園まで500m程度の範囲で散策している。昨年車椅子対応の軽自動車を追加購入し、買い物等外出の機会が増えている。四季のドライブは少し遠方まで足を延ばし、春は桜が見事な姉妹グループホームを訪問し、秋は紅葉の名所を訪れることを恒例にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預かりしたお小遣いを使って買い物をしている。現金を所持したいとの強い希望の方には、御家族から紛失の可能性の了承を得て低金額を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお手紙や品物は、入居者様に手渡している。その際は、お返事のお手紙等を書いて頂き、写真等を添えてやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子のまま入れるトイレを2箇所設置している。浴室には、機械浴もあり寝たままでも入浴できるようになっている。	事業所全体は木のぬくもりがあり、天井の窓から採光を取り入れ、自然な明るさが広がっている。トイレ扉は大きくスムーズで利用者に負担がかからないように配慮されているほか、ホールを囲むように居室があり、対面式の調理台もホールに溶け込んでいる。居室の上(2階)は事務室、会議室も含め、一周できる回廊式の通路になっており、ホールを見渡せ、また洗濯物を干せるなど工夫された設計になっており、ケアのしやすさと暮らしやすさが調和している。天気の良い日はウッドデッキに出て日向ぼっこが可能なほか、季節に合わせたぬり絵や、お雛様、クリスマスツリーを飾るなど、季節感を出す雰囲気づくりにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では座りなれた椅子に座って頂いている。畳のある小上がりスペースでは、足を伸ばしながら過ごして頂けるよう配慮している。時には小上がりで眠ってしまう方もいるので、寒くないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドとタンスが用意しており写真等も飾っている。ご家族がお泊りになる際でも、2階スペースに十分な部屋と布団を用意している。	備え付けのベッドや収納タンスに加え、衣装ケースが目立つ程度で、震災の影響もあり持ち込み用品はあまり多くなく、シンプルで清潔感のある居室になっている。担当職員が、家族とも話し合いながら、その人に合った雰囲気づくりのお手伝いをし、安らぎのある居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様自身で出来ることは見守りをし、介助が必要な場合は、ご本人に合ったケアを提供できるよう心がけている。		